

# ベトナム語における様態・性質の指示詞

—現場指示・非現場指示をめぐって—

NGUYEN THI HA THUY

**【要旨】** ベトナム語における様態・性質の指示詞は空間の指示詞と同様に、*thế này-thế-thế kia* (近称・中称・遠称) の三系列を持つ。本稿では、その用法について以下の2点を示す。

・現場指示では、[+現場]の特徴を持つ *thế này* と *thế kia* は話し手（認知主体）にとって「近」か「遠」かとみなされる対象を、*thế* は動作主体である聞き手（=指示対象）、あるいは聞き手に近い（または属する）対象を指す。非現場指示では、現場に存在しているとみなされない、あるいは話し手の記憶にある対象を指す場合は[-現場]の特徴を持つ *thế* が用いられる。一方、空間の指示詞である *kia* と異なり、*thế kia* は非現場指示では用いられない。

・また、統語的には、中称の *thế* は照応用法を持ち、対話における先行発話にある句・節、あるいは発話全体をうけることができる。近称の *thế này* と遠称の *thế kia* にはこのような用法がない。

**【キーワード】** 指示詞、様態・性質、[±現場]、現場指示、非現場指示

## 1. はじめに

ベトナム語の様態・性質の指示詞である *thế này-thế-thế kia* (近称・中称・遠称) についての先行研究は少なく、中称の *thế* しか取り上げていないものがほとんどである。Nguyen Thi Ha Thuy (2014) (以下 Nguyen (2014)) では、ベトナム語の空間的表現で用いられる指示詞を日本語・韓国語と対照させながら考察した結果、指示対象が発話現場に存在しているとみなされるか否か ([±現場]) によって *đây-đấy(đó)-kia* が使い分けられるという結論を導いている。本稿では、Nguyen (2014) での主張を改めて整理し、指示詞の一部であると思われる様態・性質の指示詞 *thế này-thế-thế kia* が指す対象とはどのようなものなのかを確認した上で、*thế này-thế-thế kia* もその主張に当てはめられるかどうかを検討する。

## 2. 本稿で扱われる指示詞の分類

*đây, này, đấy, kia* などのようなベトナム語の指示詞を主なテーマとする研究が少なく、代詞<sup>1</sup> (substitutes) の一種として扱われる研究が多数である。指示詞という用語を用いるのは、Thompson (1965) と Nguyễn Phú Phong (2002) と安達 (2008, 2009) のみであるが、本稿ではこれらの研究と同じく *đây, này, đấy, kia* などを指示

---

<sup>1</sup>代詞とは、名詞・名詞句の代わりとなる「代名詞」、動詞・動詞句の代わりとなる「代動詞」、さらには、句・節（命題）の代わりとなるものすべてを含んだ概念である（富田 2000:84）。

詞と呼ぶこととする。ひとまず、以下に指示詞を代詞として言及している先行研究を確認した上で、本稿で扱われる指示詞の分類を紹介する。

Trần Ngọc Thêm (1985) は、ベトナム語のテキストにおける結束性についての研究であり、文と文を結ぶ方法には、代詞による結束（先行する文にある語、句、節（命題）あるいは文全体を代詞（または代詞化されたもの）で照応する）という用法があるとされている。それらの代詞の分類に関しては、照応対象またはゼロ地点との関わりによって分けられると述べている。次の表 1 を見られたい<sup>2</sup>。

- ・照応対象による分類（7 類）：人(N)、物(V)、数量(L)、時間(T)、空間(K)、指定(D)、様態(C)
- ・ゼロ地点との関わりによる分類（4 類）：ゼロ始点(1)、近点(2)、遠点(3)、疑問・不定(4)

なお、表 1 には空白の部分があるように見えるが、代詞同士の組み合わせによって埋め込むことができるとも述べている（例えば、*thế này*-C1, *thế nọ*<sup>3</sup>-C2, *thế kia*-C3 等）。

		1	2	3	4
		Điểm gốc (ゼロ始点)	Điểm gần (近点)	Điểm xa (遠点)	Nghi vấn/Phiếm chỉ (疑問・不定)
N	Người (人)	TÔI, TAO, tớ... (一人称)	MÀY, cậu, anh, ông, đồng chí... (二人称)	HÀN, Y, thì, HO (三人称)	NÓ, CHÚNG, TẤT CẢ (三人称)
		TA (聞き手を含む一人称)			
		MÌNH, NHAU (一人称・二人称単数、お互い)			
V	Sự vật (物)				GÌ (何)
L	Số lượng (数量)	BẤY NHIÊU (これぐらい)	BẤY NHIÊU (それぐらい)		BAO NHIÊU (どれぐらい)
T	Thời gian (時間)	BẤY GIỜ, NAY (今)	BẤY (GIỜ) (今)		BAO GIỜ
			NĂY, MAI (さっき、明日)		
K	Không gian (空間)	ĐÂY (ここ)	ĐÂY (そこ) trên, sau... (上、後ろ)	ĐÓ (そこ・ その)	KIA (あそこ)
D	Dấu hiệu (指定)	NÀY (この)	NỌ, ẤY (その)		NÀO (どの)
C	Cách thức (様態)	THẾ, VẬY (そう・そのよう)			SAO (どう・どのよう)

(表 1) Trần Ngọc Thêm (1985) によるベトナム語の代詞の分類

<sup>2</sup> 日本語訳は筆者による。

<sup>3</sup> *thế nọ* は *thế này* と対になって、*thế này thế nọ* (「ああこう」) という形はあるが、単独では使われることがないため、本稿の研究対象から外すことにする。

一方、Nguyễn Hữu Quỳnh (2001) は、ベトナム語の指示代詞を「物事を指す指示代詞」、「空間・時間を指す指示代詞」、「様態を指す指示代詞」の三つに分けている。物事を指す指示代詞では、*này* は「近くにある人やもの、現在のこと」、*nọ* と *kia* は「遠くにあるもの」、*ấy* と *đó* は「既に言及されたもの」を指す。空間・時間を指す指示代詞では、*đây* は「近いところ」を指す。*đấy, đó, kia* は「より遠いところ」を指す。様態を指す指示代詞には *thế* と *vậy* があり、「先行する文に言及された物事の性質・様態」を指示すると述べている。また、富田 (2000) はベトナム語の代詞には人称代詞と指示・疑問代詞があり、後者を表 2 のようにまとめている。なお、表 2 に見られる「真性」とは本来の指示・疑問代詞を指し、近称・中称・遠称・不定称（疑問）の 4 分割となっているとされている。それ以外の「派生」は、指示・疑問代詞を応用し作られた派生的な代詞であるという。

本稿で扱われる指示詞は、首都であるハノイが中心となる北部方言で話される対話において使用されるものとする。また、表 3 で示されるように、ベトナム語の指示詞には空間の指示詞、様態・性質の指示詞、時間の指示詞、及び関連形態である指示詞から転用した一部の文末詞（語気詞<sup>4</sup>）、感動詞がある。本稿では、様態・性質の指示詞を考察対象とする。

指示・疑問代詞													
(真性)				(派生)									
場所	指示	程度	様態	物	人	場所	方向	性質・様態	時点	時間	数量	原因・理由	
近称	「ここ」 đây	「この」 này (nay) (nây)	「これほど」 bây	「このよう」 vậy	「これ」 cái này, đây	「この人」 người này, đây「自分」	「ここ」 chỗ này	「こちら」 phía này, đang này (具体的に)	「このよう」 (như) thế này	「このとき」 lúc này bây giờ 「今日」 hôm nay 「さっき」 lúc này khí này hồi này		「これぐら い」 bây nhiêu	
中称	「そこ」 đấy, đó	「その」 ấy, đó	「それほど」 bấy	「そのよう」 vậy, thế	「それ」 cái ấy, cái đó, đấy, đó	「その人」 người ấy, người đó, đấy 「あなた」	「そこ」 chỗ ấy, chỗ đó	「こちら」 phía ấy, phía đó, đang ấy, đang đó	「そのよう」 (như) thế ấy, (như) thế đó	「そのとき」 lúc ấy, bấy giờ lúc đó	「そのとき」 bấy giờ	「それほど 長い時間」 bấy lâu 「それぐら い」 bấy nhiêu 「そっだか ら」 vì vậy, vì thế	
遠称	「あそこ」 kia	「あの」 kia			「あれ」 cái kia, kia	「あの人」 người kia	「あそこ」 chỗ kia	「あちら」 phía kia, đang kia	「あのよう」 (như) thế kia	「あのとき」 lúc kia			
不定称 (疑問)	「どこ」 đâu	「どの」 nào	「どれほど」 bao	「どのよう」 sao	「どれ」 cái nào 「何」 gì, cái gì	「どの人」 người nào 「誰」 ai	「どこ」 chỗ nào, nơi nào	「どちら」 phía nào, đang nào	「どのよう」 (như) thế nào, lâm sao	「いつ」 lúc nào, khí nào, hồi nào	「いつ」 bao giờ 「何時(に)」 (lúc) mấy giờ	「どれほど 長い時間」 bao lâu 「何時間」 mấy giờ đồng hồ 「何分間」 mấy phút, bao nhiêu phút	「なぜ」 vì sao, tại sao, làm sao, vì lẽ gì, vì cớ gì

(表 2) 富田 (2000) によるベトナム語の指示・疑問代詞の分類

<sup>4</sup> 語気詞とは、文末に用いられ、話し手の気持ちや感情、態度を表明する語である (富田 2000:98)。

			近称	中称	遠称
指示詞	空間の指示詞 <sup>5</sup>	単独形	đây/cái này (コレ) đây/chỗ này (ココ)	đây (đó)/cái đây (đó) (ソレ) đây (đó)/chỗ đây (đó) (ソコ)	kia/cái kia (アレ) kia/chỗ kia (アソコ)
		名詞修飾形	đây/này <sup>6</sup> (コノ)	ấy (đó) (ソノ)	kia (アノ)
	様態・性質の指示詞		thế này (コンナニ、コウ...)	thế (vậy) (ソンナニ、ソウ...)	thế kia (アンナニ、アア...)
	時間の指示詞(名詞修飾形)		này/này/nây (コノ)	ấy/đó (ソノ)	kia (アノ)
指示詞からの転用	文末詞(語気詞)		đây/này (ヨ/ネ)	đây/ấy (ヨ/ネ) thế (vậy) (カ/ノ)	kia/kia (ネ/ワ)
	感動詞		này (ホレ、ホラ)	đây/ấy (ホレ、ホラ/コレ、コラ)	kia (オヤ、ホレ、ホラ)

(表 3) 本稿で扱われる指示詞の分類

### 3. [±現場]について

[±現場]([±spatial])とは、Nguyen (2014) で韓国語・ベトナム語の指示詞（空間の指示詞を中心として）を考察する際、日本語の指示詞の意味論・統語論的研究である Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みを応用して主張した意味論・語用論的素性である。まず、これらの研究では日本語の指示詞がどのように特徴付けられるかを見てみよう。

Hoji et al. (2003) は、日本語の指示詞については「コ・ア」と「ソ」という二分法の立場を取り、コとアは眼前指示においても非眼前指示においても、「近・遠」という距離区分があり、独立した対象を持ち、言語的先行詞を必要とせず（[+D]と呼ばれる）、直接経験要素を直接指示する、としている。一方、非眼前指示のソは「近・遠」という距離区分がなく、独立した指示対象を持たず、必ず言語的先行詞を必要とする（[-D]と呼ばれる）と主張している。(1)と(2)で示されるように言語的先行詞がない場合、ソは使えない。それに対して、(3)のような必ず先行詞が存

<sup>5</sup> 本稿で扱われる空間の指示詞は、物理的場所のみではなく、Nguyễn Phú Phong (2002) でも言及されているように、「私の心の中」のような概念的な場所を指すものも含まれる。

<sup>6</sup> 基本的に近称の指示詞の名詞修飾形は *này* であるが、次のような「名詞+*đây*」の形も見られる(a)。この *đây* は現場指示にしか使われず、直前に来る名詞が人である場合に限られる。さらに、*đây* を *này* に置き換えると指示対象に対する丁寧な気持ちなくなる(b)。

a. Xin giới thiệu, chị Hà *đây* là vợ của bác sĩ Nam.  
[丁寧] 紹介する お姉さん [人名] ここ [繋詞] 妻 [介詞] 医者 [人名]  
ご紹介いたします。こちらのハーさんはナム先生の奥様です。

b. Chị *này* là ai?  
お姉さん この [繋詞] 誰  
この姉さん、誰？

在する連動読み<sup>7</sup>の場合、逆にソ系の指示詞しか用いられないのである。

- (1) (状況：昨日面会に来た学生の名前が思い出せない教授が秘書に内線電話をかけ尋ねる)

教授：昨日来た{あの/#その}学生、名前何だった？

(田窪 2010:302-3)

- (2) 反政府ゲリラが大使館爆破計画の失敗のあとアジトに戻ってくる。だれも口を開かない。リーダーがまず話しはじめる。

{この/\*その}計画を最初に考え出したもの]が大使館爆破計画の実行責任者になるべきだった。

(田窪 2010:306)

- (3) どの自動車会社も{その/\*この自動車会社}の子会社を推薦した。

(田窪 2010:306)

また、コとアはいずれも[+D]の特徴を持つものの、コは[+Proximal]（「近」と見なされる要素）、アは[-Proximal]（「遠」と見なされる要素）とそれぞれ結び付く。[+/-Proximal]は言語形式上の特性であり、「近・遠」は認知上の特性であるが、「近」か「遠」かは認知主体である話し手によって、ある程度主観的に決められる。つまり、話し手にとって物理的に同じ位置にあったとしても、ある場合には「近」という特性を付けて、[+Proximal]という言語特性を持つコ系の指示詞を使うこともできるし、「遠」という特性を付けて、[-Proximal]という言語特性を持つア系の指示詞を使うこともできる。それに対して、[-D]の特徴を持つソは、それが指示する対象に対し、近・遠という認知的特徴付けができない場合、すなわちア[-Proximal]でもコ[+Proximal]でも表せない対象を表すときに使われるとされている。すなわち、[+D]の指示詞は「近・遠」のどちらかの性質を持つ対象しか指示できず、「近・遠」が決定できない場合、いわば最後の手段として[-D]の要素を用いるとなる。さらに、Hoji et al. (2003)の主張をふまえた田窪 (2010) は、上記の議論を明らかに言語的先行詞が存在しない眼前指示のソ（聞き手に近いあるいは聞き手に属する対象を指すソ）にも結び付けるために、対象が話し手から遠く、聞き手から近い場合、近・遠の特徴付けができないと示せばよいと述べ、その仮定が論理的に成り立つことを示したが、論証方法については田窪 (2010) を見られたい。

---

<sup>7</sup> 上山 (2000) では、例えば「どの政党の党员も そこ が一番だと思って党员になっているに違いない。」という文は「[A 政党の党员は A 政党が一番だと思って党员になっているに違いないし、B 政党の党员は B 政党が一番だと思って党员になっているに違いないし、C 政党の...]」という意味があり、「そこ」に相当する部分は、それぞれ、先行詞の部分の解釈と連動して値が変わっていく」と述べ、このような読みを連動読みとしている。

Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の主張は、以下のようにまとめられる。

- ・ コ・アは、ダイクシスで言語場において話し手 (= 認知主体) からの距離に基づいて指示対象が決められる。ソは言語的先行詞により、言語場と独立して指示対象が決められる。
- ・ ソは[+/-Proximal]の指定がない。
- ・ コ・アは、近・遠の指定がない対象は指示できない。眼前の対象が近・遠のどちらも指定できない場合は、ソを使わなければならない。

(田窪 2010:315)

(4) 日本語の指示詞の特徴づけ：

[+D]	コ： 近 ア： 遠
[-D]	ソ

一方、Nguyen (2014) で言及されるように韓国語の指示詞と日本語の指示詞との相違点について言えば、日本語では指示対象が発話現場にない場合は遠称のア系も中称のソ系も見られる。それに対して、韓国語では現場にない対象を指す時、中称のク(ku)系が使用される<sup>8</sup>。

(5) Chī dā nói “chuyện {*áy* / ?*kia*}” chưa? Đừng nên giấu!  
お姉さん [過去] 話す 話 その / あの まだ [禁止] 隠す

그 일은 말했어? 감추지 않는 게 좋아.

あのことは話したか? 隠さないほうがいいよ。

(Nguyen 2014:179)

<sup>8</sup> ただし、金水・岡崎・曹(2002) 及び金 (2006) では、韓国語では観念指示 (発話現場にない対象を指示する) としての **ce**(저)系も見られるが、指示対象が歴史上有名な人物や文化遺産に関する百科事典的知識である場合、あるいは、観念指示ではなく現場指示の延長としての **ce**(저)系である場合に限られると言及している。以下の(c)と(d)を見られたい。

c. (普通の大きさの部屋に A、B、C の三人がいるとする。A は B と親しいが、C とは初対面である。A は、B が C と何か話しているのを傍観していたが、しばらくして C は部屋から出ていった。C が出た直後に A が B に聞いたとする)

{\***ku** / **ce**} salam, nwukwu-ni? (金水・岡崎・曹 2002:236)  
{\*その / あの} 人 誰

d. **ce** chanlanha-n paykcey-uy munhwa! (金 2006:108)  
あの 輝かしい-現在連体 百済-の 文化

あの輝かしい百済の文化!

そこで、Nguyen (2014) はHoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みに基づき、韓国語の指示詞の性質そのものを表す[±現場] ([±spatial]) という素性を提案している。つまり、(物理的にも心理的にも) 現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる対象を指示するならば[+現場]、視覚的に確認できるかどうかに関わらず現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指示するならば[-現場]という特徴を持つことになる。ただし、対象の存在の特定は認知主体である話し手による。韓国語の指示詞では以下(6)で示されるように、近称の이(i)系と遠称의(ce)系は[+現場]であり、中称의(ku)系は[-現場]であると言及されている。

(6) 韓国語の指示詞の特徴付け：

[+現場]	이(i): 近 저(ce): 遠
[-現場]	그(ku)

これに加え、Nguyen (2014) は、ベトナム語・日本語またはベトナム語・韓国語の指示詞における共通点・相違点を考察し、日本語・韓国語の指示詞のそれぞれの特徴付けをベトナム語に応用し、その結果、ベトナム語の指示詞の特徴付けを次のように主張している。

(7) ベトナム語の空間の指示詞の特徴付け：

近	[+現場]	<i>đây</i>
遠	[+現場]	<i>kia</i>
	[-現場]	<i>kia</i>
近・遠がない	[-現場]	<i>đấy(đó)</i>

このように、「ベトナム語指示詞は日本語・韓国語と同じく、*đây-đấy(đó)-kia* の三系列を持ち、現場指示では *đây* は話し手（認知主体）にとって「近」であるとみなされるものを、*kia* は「遠」であるとみなされるものを指す。*đấy(đó)*は、聞き手に近い（あるいは聞き手に属するもの）を指す。*đây* と *kia* は「近・遠」で区別されるが、*đấy(đó)*には距離区分がない。非現場指示では、*đấy(đó)*は現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指す。*đấy(đó)*は、いわゆる典型的な非現場指示用法を持つ。つまり、指示対象が現場にはなければ、一般

的に *đáy(đó)* を使うことができる。一方、*kia* も記憶の中にあるものを指すこともあるが、現場指示における特徴が維持されており、「遠」であると判断されるものを指示する」とされている (Nguyen 2014:193)。本稿では、Nguyen (2014) で述べたことをふまえ、[±現場]と現場指示・非現場指示について次の(8)のように改めて主張する。

(8) [±現場]と現場指示・非現場指示：

- ・発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持ち、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分があるのに対し、[-現場]のものには距離区分がない。

- ・指示詞の用法については、現場指示と非現場指示に分かれている。現場指示<sup>9</sup>とは、対話・講演など話し手と聞き手が同一の空間を共有する場面において、多くの場合身ぶり・手ぶり・表情などの表現行為を伴いつつ、話し手が現に知覚していて聞き手にも知覚されるはずだとする事物を対象として指示する用法である。一方、非現場指示とは、現場に存在していない、あるいは話し手の記憶の中にある事物を対象として指示する用法である。

- ・[±現場]は指示詞の特性であり、現場指示・非現場指示は指示用法であるが、基本的に[+現場]の特徴を持つ指示詞は現場指示で用いられる。一方、[-現場]の特徴を持つ指示詞は非現場指示で用いられる。ただし、[+現場]の指示詞が非現場指示で、[-現場]の指示詞が現場指示で使われる場合もあるが、非常に限定されており、[±現場]という特性は依然として維持されている。

以上より、ベトナム語の空間の指示詞において、[+現場]の特徴を持つのは *đây* と *kia* であり、[-現場]の特徴を持つのは *đáy(đó)* であると言える。(7)では、[-現場]の *kia* が言及されているが、これは(8)によれば非現場指示に使われる *kia* でありながら、[+現場]の特徴を依然として維持していることになる<sup>10</sup>。

---

<sup>9</sup>堀口 (1978:24) による現場指示の定義に従う。なお、堀口 (1978) では、日本語の指示詞の用法には現場指示、文脈指示、観念指示、及びそれらとは異質の絶対指示があるとされている。

<sup>10</sup>この *kia* は、次のような場合に用いられるものであると考えられる。

#### 4. ベトナム語における様態・性質の指示詞

##### 4.1 様態・性質の指示詞についての先行研究：*thế*を中心に

前節で述べたように、先行研究では、本稿で言う様態・性質の指示詞を *thế này-thế-thế kia* という三系列を持つ指示詞とみなさず、*thế* を独立で考察するものが多い。Thompson (1965)と Nguyễn Đình Hòa (1997) では、*thế* をそれぞれ manner demonstratives または predicative substitutes と呼び、その意味は that way, so, as was demonstrated, refers to the way something is accomplished であると記述している。

(9) Con chó đó dữ lắm, con chó này thật cũng dữ như thế.  
[類別詞] 犬 その 怖い とても [類別詞] 犬 この 本当 も 怖い 風 そんな  
That dog is very vicious, this dog is really just as bad.

(Thompson 1965:148)

(10) Anh Ba vừa đói vừa mệt. - Tôi cũng thế.  
お兄さん [人名] ~たり 空腹 ~たり 疲れる 私 も そう  
(Brother) Ba is both hungry and tired. - I am, too. / So am I.

(Nguyễn Đình Hòa 1997:132)

・現場指示の延長の *kia* :

e. (スアン・ランさんがバオさんに知り合いのモーさんを紹介して、しばらく3人で話してから、モーさんが出ていった)

Bảo: Hoàn cảnh của cô Mơ {*này/ấy/kia*} có khác nào hoàn cảnh của Vương Thúy Kiều...  
状況 [介詞] ~さん [人名] この/その/あの [強意] 違う [反語] 状況 [介詞] [人名]  
Hậu duệ của Vương Thúy Kiều là cô Mơ {*này/ấy/kia*}  
後裔 [介詞] [人名] [繫詞] ~さん [人名] この/その/あの  
cũng đã hành động hết như tổ phụ của mình...  
も [過去] 行動する そっくり 祖父 [介詞] 自分

バオさん: あのモーさんの今の状況はヴオン・トゥイ・キエウとまったく一緒ですね。ヴオン・トゥイ・キエウの後裔であるあのモーさんもまた自分の師匠とそっくりな行動をとりました。(Nguyen 2014:189)

・真相が分からない対象、話し手がよく知らない対象などへの疎遠感が働く場合に使われる *kia* :

f. (グエン・タイ・ホックという歴史人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出てきて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する)

Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi, anh hiểu không? Anh phải dựng lại toàn bộ  
お兄さん だけ 残る 1 方 [限定] お兄さん 分かる [疑問] お兄さん ~なければならない 再現する 全部  
câu chuyện này, câu chuyện về Nguyễn Thái Học và người phụ nữ vô danh {*\*này/ấy/kia*}.  
ストーリー この ストーリー について [人名] と [類別詞] 女性 無名 この/その/あの

少将: 分かったか? 君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・タイ・ホックとあの謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。(Nguyen 2014:182)

・*dây* と対になっているような対比の *kia* :

g. A: Em đã nói với bố mẹ em chuyện chúng ta sẽ kết hôn. Anh đã nói với bố mẹ chưa?  
私 [過去] 言う [介詞] 親 私 こと 私たち [未来] 結婚 あなた [過去] 言う [介詞] 親 まだ

B: Anh nói rồi. Bố mẹ mừng lắm.  
私 言う [完了] 親 喜ぶ とても

A: À, còn chuyện {*\*này/ấy/kia*} thì sao? Anh cũng nói rồi chứ?  
[感動詞] とこで こと この/その/あの [連詞] どう あなた も 言う [完了] [疑問]

B: Chuyện chúng ta sẽ không sinh con ngay á? Anh chưa nói.  
こと 私たち [未来] [否定] 生む 子供 すぐ [疑問] 私 まだ 言う

A: 結婚のこと親に言ったわ。ご両親に話した?

B: 言った。喜んでたよ。

A: そうだ、あの話もした?

B: すぐには子供を生まないつもりって話? まだ言ってない。(Nguyen 2014:191)

一方、Lê Thị Minh Hằng (2010) では、*thế* はテキストにおける文と文を繋げる際に先行に言及されたものを指す照応用法と、対話における独立対象を指す直示用法を持つとされている。*thế* の照応用法については、先行する文にある句、節、あるいはその文全体、または先行文脈を照応すると主張している (例(11)~(15))。

- (11) A: Tôi rất thích ngắm cảnh mặt trời lặn.  
私 とても 好き 眺める 風景 太陽 沈む  
B: Tôi cũng thế.  
私 も そう

A: 日が暮れるのを見るのが好きです。

B: 私もそうです。

(Lê Thị Minh Hằng 2010:68)

- (12) A: Tôi nghĩ là anh ấy sẽ không đến.  
私 思う [繋詞] 彼 [未来] [否定] 来る  
B: Tôi cũng thế.  
私 も そう

A: 彼は来ないと思います。

B: 私もそう思います。

(Lê Thị Minh Hằng 2010:68)

- (13) Chị người Hà Nội? Tôi cũng thế.  
お姉さん 人 [地名] 私 も そう

ハノイ出身ですか。私も(そう)です。

(Lê Thị Minh Hằng 2010:69)

- (14) A: Bạn Nam học tiếng Anh 30 phút mỗi ngày.  
友達 [人名] 勉強する 英語 分 毎日  
B: Học thế thì làm sao mà không giỏi được!  
勉強する そう [連詞] どうしても [連詞] [否定] 上手 [文末詞]

A: ナム君は毎日 30 分日本語を勉強している。

B: そんなに(いっぱい)勉強したら上手にならないはずがないね。

(Lê Thị Minh Hằng 2010:71)

- (15) Năm nào cũng thế, nghỉ hè là tôi về thăm quê.  
年 どの も そう 夏休み [繋詞] 私 帰る 訪問 故郷

毎年(そうですが)、夏休みに里帰りをしています。

(Lê Thị Minh Hằng 2010:76)

また、*thế* の直示用法については、次の(16)と(17)のように、対話における発話者の眼前にある対象を指示すると述べている。

- (16) Bé Mai vẽ con chó có cái đầu rất to. Anh bé Mai nhìn thấy và nói:  
Em vẽ thế không đẹp đâu.  
妹 描く そう [否定] きれい [文末詞]

マイちゃんが頭の大きい犬の絵を描いたら、マイちゃんのお兄さんに言われた。  
「そういう風に描くときれいに見えないぞ。」

(Lê Thị Minh Hằng 2010:77)

(17) Tân nấu cơm. Anh cho thật nhiều nước vào nồi. Vợ anh nói:

Anh làm *thế* không được đâu.  
お兄さん する そう [否定] できる [文末詞]

タンさんがご飯を炊く時、炊飯器に水を多めに入れたら、奥さんに言われた。  
「*そう*しちゃいけないのよ！」

(Lê Thị Minh Hằng 2010:77)

しかし(16)は(18)と(19)のように、(17)は(20)のように場面の設定を変えると、*thế* は使えなくなる。また、後方照応の場合は、(21)で見られるように *thế* ではなく、*thế này* が使われる。なお、*thế* は後方照応用法を持たない<sup>11</sup>。

(18) マイちゃんのお兄さんがマイちゃんの描いた絵を手を持って示しながら

Em vẽ *thế này*/\**thế* không đẹp đâu.  
妹 描く こう そう [否定] きれい [文末詞]

こういう風に描くときれいに見えないぞ。

(19) マイちゃんのお兄さんが、6メートルぐらい離れている壁にあるホアちゃんの絵を指しながら

Hoa vẽ đẹp ?*thế* / *thế kia* cơ mà!  
[人名] 描く きれい そんなに あんなに [文末詞] [文末詞]

ホアちゃんはあんなにきれいに描けたよ。

(20) 奥さんが炊飯器の蓋を開けて、タンさんに言う。

Anh cho nhiều nước *thế này*/\**thế* không được đâu!  
お兄さん 入れる たくさん 水 こんなに そんなに [否定] できる [文末詞]

水はこんなに（多く）入れちゃいけないのよ！

(21) Tôi nghĩ *thế này* /\**thế*. Chúng ta đi mua đồ trước,

私 思う こう そう 我々 行く 買う 物 前  
sau đó đi thăm quan thì hay hơn.  
後 その 行く 観光 [連詞] 良い より

私はこう思います。我々は先に買い物に行って、それから観光したほうが良いでしょう。

このように、*thế-thế này-thế kia* に使い分けがあることから、上記の先行研究のように *thế* を単独で扱うのではなく、同時に *thế này-thế kia* を考慮する必要があると考えられる。ちなみに、富田 (2000) と表 4 で見られる安達 (2009) では、本稿で言う様態・性質の指示詞は *thế này-thế đó(ấy)-thế kia* の三系列を持つ指示（代）詞として扱われている。だが、そもそも *thế đó* という単一の形態素は存在しておらず、様態・性質の指示詞の *thế* と文末詞として用いる *đó* とに分けるべきであると思われる。これら以外の先行研究では、いずれにおいても *thế đó* という形が全

<sup>11</sup> 本稿で用いられる例文は、言及しない限りは作例である。また、先行研究の日本語訳は筆者による。

く見られないことから、本稿では様態・性質の指示詞を *thế này-thế-thế kia* の三系列とし、4.2 節で様態・性質の指示詞が指す対象はどういうものなのかを確認した上で、その用法を解説していく。

	近称 <i>đây</i>		中称 <i>đó</i>		遠称 <i>kia</i>	
指示詞単独	<i>đây</i>	ここ/これ	<i>đó</i> ( <i>đấy</i> )	そこ/それ	<i>kia</i>	あそこ/あれ
N+指示詞 (N=名詞)	N+ <i>này</i>	この+N	N+ <i>đó</i> ( <i>đấy</i> )	その+N	N+ <i>kia</i>	あの+N
	<i>cái này</i> ものこの	これ	<i>cái đó</i> ( <i>đấy</i> ) もの その	それ	<i>cái kia</i> ものあの	あれ
	<i>chỗ này</i> 場所この	ここ	<i>chỗ đó</i> ( <i>đấy</i> ) 場所 その	そこ	<i>chỗ kia</i> 場所あの	あそこ
	<i>người này</i> 人この	この人	<i>người đó</i> ( <i>đấy</i> ) 人 その	その人	<i>người kia</i> 人あの	あの人
	<i>thế này</i> ようこの	こう	<i>thế đó</i> ( <i>đấy</i> ) よう その	そう	<i>thế kia</i> ようあの	ああ

(表 4) 安達 (2009) によるベトナム語指示詞の形態

#### 4.2 様態・性質の指示詞が指す「対象」について

指示詞というのは何らかの対象を指し示すために用いるものであり、指示詞と指示対象がお互いに依存関係にあると言える。指示を行いたい対象があるから指示詞が必要となる。逆に、指示詞が用いられているというのは、その指示対象は必ずどこかに存在しているはずである。ベトナム語における様態・性質の指示詞も日本語のいわゆる指示副詞も例外ではないと考えられる<sup>12</sup>。しかし、これまでの両言語の様態・性質の指示詞と指示副詞の先行研究では、その対象についてできるかぎり触れないようにするものが多いようである。本節では、日本語の指示副詞とそれが指示する対象をめぐる議論を紹介し、それをふまえながら指示副詞及びベトナム語の様態・性質の指示詞が指示する対象について論じる。

日本語における指示副詞については、佐久間 (1966) では、いわゆる人称区分説を主張し、指示代名詞と同様に動作や状態を修飾する副詞的な「こう」「そう」「ああ」に関して、「こう」は話し手自身が何事かを実演して見せるしぐさ、また身近のありさまにかかわるのに対し、「そう」は相手の、「ああ」は第三者の、それぞれ動作や状態にかかわるとされている。

<sup>12</sup>ベトナム語の様態・性質の指示詞は日本語の指示副詞に意味的に対応していると言えるが、形態上ではベトナム語は *thế này-thế-thế kia* という形しか持たないのに対し、日本語は「コウ・ソウ・アア」「コノヨウニ・ソノヨウニ・アノヨウニ」「コウシテ・ソウシテ・アアシテ」「コウヤッテ・ソウヤッテ・アアヤッテ」「コンナ風ニ・ソンナ風ニ・アンナ風ニ」「コウイウ風ニ・ソウイウ風ニ・アアイウ風ニ」「コンナニ・ソンナニ・アンナニ」「コレホド・ソレホド・アレホド」などのいくつかの形を持っている。

また、指示詞の概説的なものである金水・木村・田窪 (1989) では、指示副詞<sup>13</sup> について、「こう」「こんな風に」「こうして」「こうやって」は自分の動作または自分が指している動作・作用、「そう」「そんな風に」「そうして」「そうやって」は相手の動作または相手が指している動作・作用、「ああ」「あんな風に」「ああして」「ああやって」は自分からも相手からも離れているところで起こっている動作や作用の様態・性質を指している」と述べている (p.57)。

佐久間 (1966) や後述する木村 (1983) の主張をふまえて、岡崎 (2010) では、指示副詞には指示用法と副詞用法をあわせて持つとし、指示代名詞・指示副詞が指示する対象については「指示代名詞「《指定》コノ・ソノ・アノ」「《もの》コレ・ソレ・アレ」「《場所》ココ・ソコ・アソコ (アスコ)」等が指し示すものを〈もの・こと〉とし、また指示副詞「コウ・ソウ・アア《容子》」「コンナ・ソナ・アンナ《性状》<sup>14</sup>」等の指し示す (表す) ものを、あわせて〈さま〉とする」と主張している (p.17)。また、「指示副詞は述語に係り、述語の表す動作や作用・状態を指し示すものであり、それらの述語には必ず主体が存在する。つまり、指示副詞コ・ソ・ア系の直示用法<sup>15</sup>における指示対象は、話し手・聞き手・第三者に関わるものであると考えられる」とも述べている (p.28)。

このように、日本語における指示副詞についての記述は数多く存在しているにも関わらず、その指示対象に関しては言及されていないか、あるいは言及されてもそれほど明確ではないものがほとんどである。本節では、「コノ」と「コンナ」の文脈指示における意味及び機能上の違いを議論している木村 (1983) を確認した上、指示副詞及びベトナム語の様態・性質の指示詞が指し示す対象について考えるが、まず木村 (1983) の主張を以下に紹介しよう。

(22)「コンナ」はもとより指示詞一般が担う‘境遇的’deictic な関係的概念に加えて、或いは〈性状〉 (佐久間 1936) と呼ばれ、或いはまた〈状態〉 (時枝 1950) と呼ばれるところの実質的概念をも担うものである。その実質的概念をここでは仮に〈さま〉と呼ぶことにすると「コンナとはすなわち〈さま〉を指示し、同時に〈さま〉を表す」指示詞であると言える。一方、「コノ」はそれ自身いかなる実質的概念も担わず、ただ後に来る名詞によって表される事物 (即ち実質的概念) を単に指示する機能しかもたない」とされる。すなわち、

<sup>13</sup>ただし、金水・木村・田窪 (1989) では指示副詞という用語を使用していない。

<sup>14</sup>だが、「コンナ・ソナ・アンナ」は統語的に指示副詞と言えるかは岡崎 (2010) に対する疑問の一つである。

<sup>15</sup>ただし、岡崎 (2010) では、指示副詞も指示代名詞と同様に直示用法・照応用法・観念用法を持つとされているが、照応用法・観念用法における指示対象は明確に書かれておらず、おそらく上記の定義の〈さま〉になると思われる。

「コンナ」が指し示す（同時に表す）対象は〈さま〉となる。

（木村 1983:73）

つまり、以下の例で示されるように、いずれも一冊の本を指しながらの発話だとすると、(23)の指示表現である「この」が眼前の物理的実態としての「本」そのものを直示しているのに対して、(24)の「こんな」は「本」そのものを直示しているわけではなく、明らかにその本の内容であるとか或いは表紙の体裁等といったようななんらかの〈さま〉を指向しているという差が読み取れるとされている。

(23) 先生、この本が出ましたよ。

(24) 先生、こんな本が出ましたよ。

また、「この」と「本」が、指示し、指示される関係において結びつくものであるのに対して、「こんな」と「本」の関係はそうではなく、むしろ「こんな」がある〈さま〉を指示し、同時にその〈さま〉を担いつつ「本」を（連体）修飾していると見なされるべきであるという。ここで、木村による「この」と「こんな」の意味・機能上の違いをまとめると、次のようになる。

(25) 「この」と「こんな」の意味・機能上の違い：

	「この」	「こんな」
指す	ものごと	さま
表す	×	さま

上記の木村（1983）での主張をふまえて、指示詞代名詞と指示副詞には(26)のような相違があると考えられる。さらに、その違いに基づいて、指示副詞が指示する対象については(27)のように主張したい。

(26) 指示代名詞と指示副詞の機能上の違い：

	指示代名詞	指示副詞
指す	ものごと	ものごと
表す	×	様態・性質

(27) 先行研究（佐久間（1966）、木村（1983）、金水・木村・田窪（1989）、岡崎（2010）など）では、指示代名詞が指し示す対象はものごとであり、指示副詞が指示する対象は動作・作用の様態または何らかの性質・性状であるという立場を取っている。本稿では、日本語における指示代名詞も指示副詞もどち

らも（実質的な）ものごとを指し示すと考える。なお、指示副詞の指示対象である「ものごと」とは、具体的に動作・作用の主体自体または性質・性状が形容されるもの自体のことである。たとえば、以下で示されるように「この」(ア)も「こんなに」(イ)も指示対象である「魚」を指していると思われる。

(ア)「この魚はなんといいですか」

「カレイです」 (金水・木村・田窪 1989:7)

(イ) こんなに美味しい魚、はじめてです。

指示代名詞のコ・ソ・アと同じく、指示副詞のコウ・ソウ・アア、コンナニ・ソンナニ、アンナニ等にも、その使い分けを決めるために「近・遠」という要素が必要となる。「近・遠」の特定は、認知主体である話し手と指示対象である動作主体または形容されるものとの距離によって決定される。ちなみに、距離というものは、物理的な「もの」と「もの」の間で計算されるため、先行研究のように指示副詞の指示対象を動作・作用の様態または何らかの性質・性状とすれば、話し手と対象との距離を測ることは不可能である。よって、「近・遠」の特定はできない。

指示副詞は、「指す」という機能しか持たない指示代名詞とは異なり、「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持つ。前述のように、「指す」のは指示対象（動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体）であり、「表す」のはその対象が行う動作・作用の様態、またはその対象の性質・性状である。つまり、何かを単に指したい時は指示代名詞を、何かを指しながら同時にそのものが行う動作・作用の様態またはそのものの性質・性状も表したい場合は指示副詞を使うのである。次の(ウ)では、指示代名詞の「これ」は指示対象である「箸」を指している。それに対し、(エ)では、「こう」は指示対象である動作主体の「話し手」を指示しながら、対象が行う「挟む」「動かす」という動作の様態を表している。

(ウ) 箸を手で持ちながら

「これは何ですか」

(エ)「お箸の持ち方を教えてください」

「右手の指にこう挟んで、こう動かすのです」

「ああ、そんな風にするのですか」 (金水・木村・田窪 1989:65)

上記の(27)は、ベトナム語の様態・性質の指示詞にも当てはまると考えられる。つまり、様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体である。ただし、ベトナム語では「指す」機能を果たすために、対象が発話現場に存在しているか否か、または話し手から「近い」か「遠い」かを判断する必要があるが、次節でその考察を見ていきたい。

### 4.3 様態・性質の指示詞 *thế này-thế-thế kia* と[±現場]

4.2 で述べたことを前提とし、ベトナム語の様態・性質の用法が3節で前述した[±現場]にどのように反映しているかを考察していこう。まず、*thế này-thế-thế kia* について以下のように主張する。

(28) 本稿で扱われる様態・性質の指示詞は、指示詞の一種であり、*thế này-thế-thế kia* (近称・中称・遠称)の三系列を持つ。様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体である。指示対象が発話現場に存在しているとみなされるか否か、そして認知主体である話し手から「近」か「遠」かによって様態・性質の指示詞が選ばれる。また、統語的には、*thế này-thế-thế kia* のどれも副詞相当句として使われるが、節相当句として使われるのは *thế* のみである。

以上のことをふまえながら、(8)で主張した[±現場]という特徴付けは様態・性質の指示詞にも当てはめられるかどうかを確認するために、以下に *thế này-thế-thế kia* を現場指示と非現場指示に分けて考察する。結論を先取りして述べると、ベトナム語における様態・性質の指示詞は次のように特徴付けられると考えられる。

(29) ベトナム語における様態・性質の指示詞の特徴付け：

[+現場]	<i>thế này</i> : 近 <i>thế kia</i> : 遠
[-現場]	<i>thế</i>

つまり、空間の指示詞と同様に、[+現場]の特徴を持つのは近称の *thế này* と遠称の *thế kia* である。*thế này* と *thế kia* は認知主体である話し手が指示対象を「近」

と認知するか、または「遠」と認知するかによって区別される。一方、[-現場]の特徴を持つ *thế* には距離区分がない。

#### 4.3.1 [+現場]：近称の *thế này* と遠称の *thế kia*

4.1 で述べたように、指示対象が話し手の目の前にあるなら全て *thế* で指すとは限らず、その対象との距離によって以下で示されるように *thế này* あるいは *thế kia* を使用することもある。対象が話し手から可視的で、近くにあるものを指すなら *thế này* (例(30)~(36))、遠くにあるものを指すなら *thế kia* (例(37)、(39)、(40)) が用いられる。一方、指示対象が可視的でないものの場合は、*thế này* は使われるが (例(47)~(49))、*thế kia* は見られない。

##### ・現場指示：

(30)は話し手自身 (=指示対象) が行う「銃を持つ」という動作の様態、(31)と(32)は話し手が自分の手で持つ「ノートの落書き」 (=指示対象) の内容、または「プレゼント」 (=指示対象) の性質を表す。一方、(33)と(34)は話し手が穴や家の中にいる場面であり、「穴」や「家」を指しながら「大きい」という性質を表す。(35)と(36)は、話し手が食べているまたは感じる「ケーキ」、「暑さ」を指示しながらそれが持っている性質 («おいしい」、「暑い») を同時に表している。いずれも話し手は指示対象を「近」と判断できるため、[+現場]の近称の *thế này* が使用される。

(30) ジョンがランに銃の使い方を教えてもらう。

Lan: *Cầm thế này/\*thế/\*thế kia* nhé!  
持つ こう そう ああ [文末詞]  
John: *Thế này/\*thế/\*thế kia* á?  
こう そう ああ [疑問]

ラン：こう持つのよ。

ジョン：こう？

(31) ミン君がノートに「うちの母、マジでうるせー」と落書きしたら、お母さんに見られた。ミン君のお母さんがそのノートを持ちながら

Con *dám viết thế này/\*thế/\*thế kia* hả!  
子 大胆にも 書く こう そう ああ [文末詞]

よくこういう風にかいたわね！

(32) ランがジョンに高級なプレゼントを渡された。

Món *quà quý thế này/\*thế/\*thế kia* mà cho Lan á?  
[類別詞] プレゼント 貴重 こんなに そんなに あんなに [連詞] くれる [人名] [疑問]

こんなに高級なもの、私がもらっちゃっていいのかな？

(33) 考古学者が穴の中に立ちながら

Mất công đào cái hố to **thế này** / \***thế** / \***thế kia** mà chẳng tìm được gì.  
無駄働き 掘る [類別詞] 穴 大きい こんなに そんなに あんなに [連詞] [否定] 見つける できる 何

こんなに大きな穴を掘ったのに何も見つからないなんて。

(34) 初めて友達の家遊びに来た。

Nhà to **thế này** / \***thế** / \***thế kia** ở sao hết?  
家 大きい こんなに そんなに あんなに 住む どうして 切れる

こんなに大きな家は使いきれないじゃない？

(35) おいしいケーキをご馳走になって、食べながら

Lần đầu tiên em được ăn bánh ngon **thế này** / \***thế** / \***thế kia** đấy.  
回 初め 妹 できる 食べる ケーキ 美味しい こんなに そんなに あんなに [文末詞]

こんなにおいしいケーキははじめてですよ。

(36) Nóng **thế này** / \***thế** / \***thế kia** chẳng muốn ăn gì, chỉ muốn ăn kem.

暑い こんなに そんなに あんなに [否定] 欲しい 食べる 何 だけ 欲しい 食べる アイスクリーム

こんなに暑い時は何も食べたくない。アイスクリームしか食べたくない。

一方、(37)のような遠くに離れている指示対象である「敵」の程度を表す場合は、[+現場]の遠称の **thế kia** が用いられる。ただし、(38)のように対象（敵）が先行発話で既に言及されたものであれば、**thế kia** より中称の **thế** が適切になる。

(37) 50 メートル離れた所にいる敵を見ながら

Địch đông **\*thế này** / ?**thế** / **thế kia** sao?  
敵 多い こんなに そんなに あんなに [疑問]

敵はあんなに多かった？

(38) 50 メートル離れた所にいる敵を見ながら部下が大將に報告する。

Cấp dưới: Địch có ít nhất 5 nghìn tên a.  
敵 いる 少ない 一番 千 [類別詞] [丁寧]

Đại tướng: Địch đông **\*thế này** / **thế** / \***thế kia** sao?  
敵 多い こんなに そんなに あんなに [疑問]

部下: 敵は少なくとも5千はいます。

大將: そんなに多かった？

さらに、(39)も(40)と同様に、遠くに離れている「家」を指しながら、対象の性質（「大きい」）を表すので、遠称の **thế kia** が使われる。(40)では、(38)と同じく指示対象である「ランさんの家」が先行発話に言及されているものであるため、**thế** が用いられる。ただし、(38)と(40)のいずれにおいても、話し手がその現場から離れると **thế** しか使えなくなる。

(39) 30 メートル離れた所から別荘地の家を見ながら

Những người có nhà to **\*thế này** / ?**thế** / **thế kia** thì chắc giàu lắm.  
[複数] 人 ある 家 大きい こんなに そんなに あんなに [連詞] おそらく 金持ち とても

あれくらい大きな家を持っている人たちは大金持ちでしょうね。

(40) 30メートル離れた所から

John: *Kia* là nhà của Lan đấy!  
あれ [繫詞] 家 [介詞] [人名] [文末詞]

Minh: Nhà to \**thế này* / *thế* / \**thế kia* ! Chắc giàu lắm nhỉ?  
家 大きい こんなに そんなに あんなに おそらく 金持ち とても [文末詞]

ジョン：あれはランさんの家だよ。

ミン：あんなに大きな家！きっと大金持ちでしょうね。

また、Nguyen (2014) でも言及しているように、以下の(41)と(42)は聞き手に属する「(喧嘩後の)顔」または「(シャツ一枚の)格好」(=指示対象)の様態を指す場合であるが、*thế kia* も *thế* も使用されることがある。ただし、*thế kia* を用いると話し手が対象に対して非常に驚いたり非難したりするというニュアンスが出てくる。この場合は、指示対象との間に疎遠感を感じる話し手は、対象を「遠」と判断し、中称の *thế* ではなく遠称の *thế kia* を選ぶと考えられる。なお、同例において、話し手(母)が聞き手(子供)の近くにいる場合なら *thế này* を使うこともある。

(41) 部屋に入ってきた子供の顔を見てびっくりする母

Con làm sao mà mặt mũi thành ra *thế này* / *thế* / *thế kia* hả?  
子 なぜ [連詞] 顔 鼻 なる こんなに そんなに あんなに [疑問]

Lại đánh nhau với ai à?  
また 喧嘩 [介詞] 誰 [疑問]

どうして顔はそうなの？また誰かと喧嘩したの？

(42) 真冬にシャツ一枚で出かけようとする子供を見てびっくりする母

Trời rét thế này mà ăn mặc *thế này* / *thế* / *thế kia*? đi à?  
天 寒い こんな [連詞] 着る こんなに そんなに あんなに 行く [疑問]

こんなに寒いのにそんな格好で行くの？

ちなみに、空間の指示詞の遠称である *kia* にもこのような用法がある。次の(43)で見られるように、中称の *đấy(đó)* と遠称の *kia* のどちらも適切であるが、*kia* を用いる時のニュアンスは *đấy(đó)* とは異なる。*đấy(đó)* を用いると、ただ聞き手に属するものを指示するが、*kia* を用いると、話し手が指示対象を非難しているというニュアンスが出てくる。また、*thế này* と *thế kia* はどちらも[+現場]であるが、「近・遠」で区別されるという特徴から、対になって「ああこう」「あれこれ」という意味で用いられることもある(例(44)~(46))。なお、空間の指示詞にも同様な形が観察される。

(43) Xuân Lan: Chúng ta phải hi sinh bản thân chúng ta đi. Chúng ta phải từ bỏ dục tính...  
私たち ~べき 犠牲 自分自身 私たち [語気詞] 私たち ~べき 諦める 欲情

Chung: Tôi không tin Xuân Lan...Xuân Lan không dám thành thực với mình.  
 私 [否定] 信じる [人名] [人名] [否定] 思い切る 誠実 [介詞] 自信  
 Cái áo xê tà {*\*này / ấy(đó) / kia*}, một chút son phấn trên khóe miệng  
 [類別詞] すそが別れたブラウス この / その / あの 少し 化粧 上 口元  
 {*\*này / ấy(đó) / kia*}, bộ trang phục “mô-đen” {*\*này / ấy(đó) / kia*}...  
 この その あの [類別詞] 服装 モダン この その あの  
 Tất cả là tổ cáo, là bằng chứng của dục vọng.  
 すべて [繫詞] 告訴 [繫詞] 証拠 [介詞] 欲望

スアン・ランさん: 私たちは自分自身を犠牲にすべきです。欲情を捨てるべきです。  
 チュンさん (スアン・ランさんを指して言う): 僕はスアン・ランを信じません。  
 あなたは自分自身に素直になっていないのです。その裾が開いたブラウス、その  
 口元に見えるほんの少しの化粧、そのモダンな服装... すべてが欲情を訴える証  
 拠です。

(Nguyen 2014:172)

(44) Hôm nay thì nói *thế này*, ngày mai lại nói *thế kia*.  
 今日 [連詞] 言う こう 明日 また 言う ああ

今日はこう言って、明日はまた違うことを言う。

(45) Người nói *thế này*, người nói *thế kia*. Chẳng biết đâu mà tin.  
 人 言う こう 人 言う ああ [否定] 知る どこ [連詞] 信じる

この人はこう言って、違う人はまた違うことを言っている。誰を信じたらいいか  
 分からない。

(46) Đến muộn rồi còn đòi hỏi *thế này thế kia*.  
 来る 遅れる [完了] [介詞] 要求 こう ああ

遅刻してきたくせに、ああやこうや要求するなんて...

#### ・非現場指示：

次の(47)では、話題の人物である「酔っ払った夫」、(48)では話し手自身が経験している「つまらない一ヶ月」を *thế này* で指示しながら表す。この場合は、久野(1973:188)で言及されている日本語の指示詞のコ系と同様に、指示対象が目に見えないものではあるが、いかにも生々しく、まるで話し手の目に見えるように再現され、現場指示的色彩が強いと考えられる。なお、(47)は4.3.2で後述する[一現場]の *thế* も用いられる。(48)は、「今月」を「先月」などのような過去の時点に場面を変えれば、現場にないものを指す場合と同じく、[一現場]の *thế* が使われる。ちなみに、空間の指示詞では、近称が後方照応用法を持っているが、(49)で見られるように様態・性質の指示詞においても、近称の *thế này* が後方照応（現場指示の一種<sup>16)</sup>）として使われる。一方、*thế kia* は非現場指示では用いられない。

<sup>16)</sup> 金水・田窪 (1992) では、後方照応のコは、あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を解説者が指し示す場合に典型的に用いられる「解説のコ」の一種であり、現場指示とみなせると述べている。

- (47) 酔っ払った夫が帰ってきたのを見て嫌がっている妻が、すぐ隣の部屋に行って友人に電話し、愚痴を言う。

Trước khi cưới mà biết là người như *thế này / thế / \*thế kia*  
 前 時 結婚する [連詞] 知る [繫詞] 人 風 こんな そんな あんな  
 thì đã không chọn!  
 [連詞] [過去] [否定] 選ぶ

結婚する前にこういう人だと知っていたら選ばなかったのに！

- (48) Tháng này ngoài ngày Chủ nhật ra, không có một ngày nghỉ nào khác.  
 今月 以外 日曜日 [強調] [否定] ある 1 休日 どの 他

Sao lại có tháng vô vị *thế này / ?thế / \*thế kia* nhỉ!  
 なぜ また ある 月 無味 こんなに そんなに あんなに [文末詞]

今月は日曜のほか、一日も休めないなんてこんなにつまんない月があるか！

- (49) Chuyện là *thế này/\*thế/\*thế kia*: sáng nay, trên đường đi học...  
 話 [繫詞] こう そう ああ 今朝 上 道 行く 勉強する

こういうことなんです。今朝、学校に行っている途中...

このように、[+現場]の特徴を持つ *thế này* と *thế kia* は現場指示で用いられ、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す。認知主体である話し手から「近」である対象を *thế này*、「遠」である対象を *thế kia* で指すが、必ずしも物理的距離に基づくものではない。また、現場にない対象を指す *thế này* も見られるが、現場指示的色彩が強く、[+現場]の特徴を維持していると言える。一方、遠称の *thế kia* は非現場指示として用いられないという点では空間の指示詞である遠称の *kia* と異なる。

#### 4.3.2 [-現場]：中称の *thế*

##### ・現場指示：

以下の(50)では聞き手（＝指示対象）が行う動作「凧揚げをする」の様態、(51)と(52)では聞き手（＝指示対象）の「うれしい」、「興奮する」という様子、(53)では聞き手（＝指示対象）に属する性質「歌がうまい」を、いずれも中称の *thế* で指しながら表す。

- (50) ランが凧揚げをするのを見ているジョン

Chơi kiểu như *\*thế này / thế / \*thế kia* à?  
 遊ぶ 形 風 こんな そんな あんな [疑問]

そんな風に遊ぶの？

- (51) バラの花をもらったランを見ているジョン

Được tặng có mỗi bông hoa mà cậu vui đến  
 得る あげる ある 1 [類別詞] 花 [連詞] あなた うれしい まで  
*\*thế này / thế / \*thế kia* cơ à?  
 こんなに そんなに あんなに [文末詞] [疑問]

花一本もらったぐらいで、そんなにうれしいかい？

(52) Cậu đọc cái gì mà khoái chí *\*thế này/thế/\*thế kia*?  
あなた 読む 何 [連詞] 興奮する こう そう ああ

何を読んで、そんなに興奮してるの？

(53) Minh hát hay như *?thế này/thế/\*thế kia* thì trở thành ca sĩ được đấy!  
[人名] 歌う いい 風 こんな そんな あんな [連詞] なる 歌手 できる [文末詞]

ミン君、それだけ歌がうまかったら歌手を目指してもいいんじゃない。

#### ・非現場指示：

指示対象が目の前に存在していない時は、[-現場]の *thế* が使用される。次の(54)～(57)のような可視的でない対象（「(がみがみ言った) 母」、「(色々言った) 私」、「(おいしかった) ケーキ」）を指す場合なら、全て *thế* で指すことができる。ただし、(54)と(55)では *thế này* を使うこともあるが、(47)と(48)で見たようにこれも指示対象（「(がみがみ言った) 母」または「(色々言った) 私」）を、目の前にあるかのように生き生きと強調して叙述する場合に限られる。

(54) 母に叱られたランが父に愚痴る。

Hồi con còn nhỏ, có bao giờ mẹ nặng lời *?thế này/thế/\*thế kia* đâu.  
頃 子 まだ 小さい ある いつ 母 重い 言葉 こんなに そんなに あんなに [文末詞]

小さいころは、母にあんなにがみがみ言われなかった。

(55) Đã nói đến *?thế này/thế/\*thế kia* mà sao không nghe hả?  
[過去] 言う まで こう そう ああ [連詞] なぜ [否定] 聞く [疑問]

あれほど言ったのになんで聞かなかったの？

(56) おいしいケーキをご馳走になって、次の日に会ってお礼を言う。

Lần đầu tiên em được ăn bánh ngon *\*thế này/thế/\*thế kia*. Cảm ơn chị!  
回 初め 妹 できる 食べる ケーキ 美味しい こんなに そんなに あんなに 感謝 お姉さん

あんなに美味しいケーキははじめてです。ありがとうございました！

(57) 講演会のチラシを前日にたくさん配ったのに誰も来ず、困っているミンとラン

Minh: Phát nhiều đến *\*thế này/thế/\*thế kia* mà không có một ai ư?  
配る たくさん まで こんなに そんなに あんなに [連詞] [否定] いる 1 誰 [疑問]

あんなに配ったのに一人も来ない？

このように、[-現場]の特徴を持つ *thế* は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指す。発話の現場に存在しなければ、どんな対象でも *thế* で指すことができる。また、[-現場]の特徴を持つ、すなわち目に見えない対象を指すため、*thế* は指示対象との距離を考慮する必要がない時に用いられるものであると言える。つまり、[-現場]の *thế* には「近・遠」の距離区分がない。

しかしながら、*thé* は以上で見たように、動作主体である聞き手（＝指示対象）、あるいは聞き手に近い（または属する）対象を指示しながら表すこともできる。というのは、聞き手が話し手には可視的でない場合はともかく、そうでない場合に用いられる *thé* も[－現場]であると言えるかは問題である。これに関して、本稿では次のように考える<sup>17</sup>。

・(8)で述べたように、「近・遠」と[±現場]は意味論・語用論的性質で独立しているが、「近」または「遠」は[＋現場]しか取れない。「近・遠」がない、言い換えれば「近・遠」が特定できないものは[＋現場]を取れず、「近・遠」を考慮する必要がない非現場指示はもちろん、現場指示の場合でも最終手段として[－現場]を取ることとなる。

・よって、「近・遠」という距離区分がない眼前にある対象を指示する *thé* も[－現場]であると考えられる。

ここで、*thé* は「近・遠」がないことを説明できれば主張が成り立つ。Nguyen (2014) にも言及されているが、「近・遠」が特定できないのは次の二つである。

- ・指示対象が三つあって、中距離にあるものを指す場合。
- ・聞き手（＝指示対象）、あるいは聞き手に近い（または属する）ものを指す場合。

指示対象が三つあって、中距離にあるものを指す場合はベトナム語では一般的に中称の指示詞が用いられる。しかしながら、対象が三つの中のどれかがなくなった時は中称の指示詞が使えなくなり、残りの二つの対象を近称か遠称の指示詞で指示する。ただし、「近」か「遠」かの特定は話し手による。一方、聞き手（＝指示対象）、あるいは聞き手に近い（または属する）ものを指す場合は、聞き手が話し手の近くにいるなら、近称の指示詞を使うことができる。そうでない場合は、話し手は指示対象との距離を特定する際に、聞き手が大きな妨害となるだろう。なぜならば、話し手は認知主体として自分と指示対象との距離を測る。その際、認知空間にあるのは話し手と対象のみであり、対象が自分から近いか遠いかという二つの選択肢しかない。だが、対象が聞き手自体あるいは聞き手に近いものだと、話し手は聞き手が認知空間に存在していることを無視できない。そのため、

---

<sup>17</sup>空間の指示詞の *đáy(dó)*系（中称）にも同様なことが言える。詳しくは Nguyen (2014) を見られたい。

指示対象との距離を測りづらくなる。そこで、最終的手段として「近・遠」の特定ができない中称の指示詞を用いるのである。よって、眼前にある対象を指示する *thế* も「近・遠」がないという特徴を持つため、[一現場]を取ることとなる<sup>18</sup>。

ちなみに、本稿のアプローチとは異なるが、4.1 で述べたように、先行研究では *thế* (あるいは同じ用法を持つ *vậy*<sup>19</sup>) には、直示用法と照応用法があるとされている。上記の(50)~(57)は先行研究で言う直示用法に当たるものであり、次の(58)~(60)は(前方)照応用法に当たるものである。すなわち、対話では、*thế* は先行発話の句・節、あるいは発話全体をうけることができる。以下の(58)と(59)では、先行発話の「顔を見てあざ笑った」、「ノートを貸す」を、(60)では「ベトナム人？」という発話全体を指している。なお、これらの例では、いずれも *thế này* と *thế kia* を用いることができない。

(58) *Cấp trên* : *Rõ ràng mày đã nhìn vào mặt tao rồi cười khẩy.*  
明らか おまえ [過去] 見る 入る 顔 俺 [連詞] あざ笑う  
*Cấp dưới*: *Không ạ, em đâu dám làm việc thất lễ như*  
[否定] [丁寧] 弟 [強調] 大胆にも する こと 失礼 風  
*\*thế này / thế / \*thế kia* ạ.  
こんな そんな あんな [丁寧]

上司：たしかに俺の顔を見てあざ笑ったぞ。  
 部下：いや、**そんな**失礼なことは...

(59) *Minh*: *Cậu đã nói sẽ cho tớ mượn vở mà!*  
あたま [完了] 言う [未来] あげる 私 貸す ノート [文末詞]  
*Lan*: *Tớ có nói \*thế này/ thế / \*thế kia à?*  
私 ある 言う こう そう ああ [疑問]

ミン：ノートを貸してくれるって言ったのに！  
 ラン：**そう**言ったっけ？

(60) *Người Việt* à?  
人 ベトナム [疑問]  
*Vâng, đúng \*thế này / thế / \*thế kia.*  
はい 正しい こう そう ああ

ベトナム人？  
 はい、**そう**です。

この *thế* の(前方)照応用法は統語的特徴であり、本稿で主張している意味論・語用論的特徴付けである[±現場]とは直接関係しないが、対話での先行発話の句・節、あるいは発話全体をうけるというのは、言い換えれば先行発話に言及されたものを指示すると言える。先行発話に言及されたものは、話し手にとって新情報

<sup>18</sup> Hoji et al. (2003) と田窪 (2010) では、眼前指示のソについて同様なことを主張している。詳しくは Hoji et al. (2003)、田窪 (2010) を見られたい。

<sup>19</sup> *vậy* は、基本的に、中部・南部方言で用いられる。

として導入した後、すぐに旧情報として思い出して発話するような記憶の中にあるものごとと同じようなものであろう。したがって、本稿の観点からすれば、この場合に用いられる *thé* も、記憶の中にあるものを指す非現場指示の *thé* と同様に[-現場]の特徴を持つと考えられる。

## 5. 結論

上記のことをふまえて、本稿ではベトナム語における様態・性質の指示詞について、次のようにまとめる。

・様態・性質の指示詞も空間の指示詞と同様に、*thé này-thé-thé kia*（近称・中称・遠称）の三系列を持つ。様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体である。

・現場指示では、[+現場]の特徴を持つ *thé này* は話し手（認知主体）にとって「近」であるとみなされる対象を、[+現場]の特徴を持つ *thé kia* は「遠」であるとみなされる対象を、*thé* は動作主体である聞き手（＝指示対象）、あるいは聞き手に近い（または属する）対象を指す。非現場指示では、現場に存在しているとみなされない、あるいは話し手の記憶にある対象を指す場合は[-現場]の特徴を持つ *thé* が用いられる。すなわち、対象は現場になれば、全て *thé* で指示することができる。一方、空間の指示詞である *kia* と異なり、*thé kia* は非現場指示では用いられないが、その原因について今後は更なる吟味が必要となる。

・また、統語的には、中称の *thé* は前方照応用法を持ち、対話における先行発話にある句・節、あるいは発話全体をうけることができる。近称の *thé này* と遠称の *thé kia* にはこのような用法がない。

## 【参考文献】

- 安達真弓 (2008) 「ベトナム語指示詞 *đây, đó, kia* の直示用法と照応用法—日本語指示詞との対照を基に—」『東京大学言語学論集』27, 207-216.
- (2009) 「ベトナム語指示詞の直示用法における聞き手の位置と記憶指示用法の *kia* について」『東京大学言語学論集』28, 1-11.
- 上山あゆみ (2000) 「日本語から見える「文法」の姿」『日本語学』4 月臨時増刊号(vol.19) 明治書院, 169-181.
- 岡崎友子 (2004) 「「コソアで指示する」ということ—直示 (ダイクシス) についての覚書」『語文』第 83 輯, 59-70.
- 岡崎友子 (2010) 『日本語指示詞の歴史的研究』 ひつじ書房.
- 木村英樹 (1983) 「「こんな」と「この」の文脈照応について」『日本語学』2, 11 月号, 71-83.
- 金善美 (2006) 『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』 風間書店.
- 金水敏・岡崎友子・曹美庚 (2002) 「指示詞の歴史的・対照言語学研究 —日本語・韓国語・トルコ語—」 生越直樹 (編) 『シリーズ言語科学 4 対照言語学』 東京大学出版会, 217-247.
- 金水敏・木村英樹・田窪行則 (1989) 『日本語文法セルフ・マスターシリーズ 4 指示詞』 くろしお出版.
- 金水敏・田窪行則 (編) (1992) 『日本語研究資料集 1 指示詞』 ひつじ書房.
- 久野暲 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店.
- 佐久間鼎 (1966) 『現代日本語の表現と語法 (補正版)』 厚生閣 (1983 年くろしお出版より復刊).
- 田窪行則 (2010) 『日本語の構造 推論と知識管理』 くろしお出版.
- 富田健次 (2000) 『ヴェトナム語の世界—ヴェトナム語基本文典』 大学書林.
- 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8 大阪外国語大学, 23-44.
- Hoji, Hajime, Satoshi Kinsui, Yukinori Takubo, and Ayumi Ueyama (2003) The Demonstratives in modern Japanese. Yen-hui Audrey Li and Andrew Simpson (eds.), *Functional Structure(s) Form and Interpretation: Perspectives from East Asian Languages*, 97-128.
- Lê Thị Minh Hằng (2010) “**thế/vậy** dưới góc độ thực hành tiếng” [**thế/vậy** について—ベトナム語教育の視点から—] *Ngôn ngữ số 1*, 68-79.
- Nguyễn Đình Hòa (1997) *Vietnamese – Tiếng Việt không son phấn* [かざりのないベトナム語] John Benjamins Publishing Company.

- Nguyễn Hữu Quỳnh (2001) *Ngữ pháp tiếng Việt* [ベトナム語文法] Nhà xuất bản Từ điển bách khoa.
- Nguyễn Phú Phong (2002) *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt – Loại từ và chỉ thị từ* [ベトナム語文法の諸問題－類別詞と指示詞] Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Nguyen Thi Ha Thuy (2014) 「ベトナム語指示詞について－日本語・韓国語の指示詞との対照を基に－」『京都大学言語学研究』33, 167-95.
- Thompson, Laurence C. (1965) *A Vietnamese Grammar* University of Washington Press.
- Trần Ngọc Thêm (1985) *Hệ thống liên kết văn bản tiếng Việt* [ベトナム語のテキストにおける結束性をめぐって] Nhà xuất bản Khoa học xã hội.

# Demonstratives of Manner and Quality in Vietnamese

NGUYEN THI HA THUY

## Abstract

This paper attempts to (1) reconsider the definition of the feature [ $\pm$ spatial] proposed by Nguyen Thi Ha Thuy (2014), (2) suggest a definition of referent indicated by demonstratives of manner and quality, and (3) consider the possibilities of analyzing the function of *thế này-thế-thế kia* using [ $\pm$ spatial]. The results are as follows:

[+spatial]	<i>thế này</i> : proximal <i>thế kia</i> : distal
[-spatial]	<i>thế</i>

Demonstratives of manner and quality have a three-term system of *thế này-thế-thế kia*. Along with the deictic function, demonstratives of manner and quality also have the function of describing the manner of the action or the quality of the subject mentioned in the utterance, of which the reference is either the agent of the action or the subject itself.

In deictic uses, *thế này* (proximal) indicates a referent spatially close to the speaker, while *thế kia* (distal) indicates a referent far from the speaker. *thế* does not possess a spatial distinction, and identifies a referent close or belonging to the hearer, or the hearer him/herself as the agent of the action. Meanwhile, *thế* has a typical memorative use identifying a non-present referent recalled from the speaker's memories. In other words, any non-present referent is indicated by *thế*.

Syntactically, *thế* has an anaphoric use referring back to a phrase/clause mentioned in earlier text/utterance, a sentence, or an utterance itself. *thế này* and *thế kia* do not have this use.

受領日 2015年9月28日  
受理日 2015年11月23日